

第十九回国会 運輸委員會 議 録 第四十号

昭和二十九年九月二十九日(水曜日)

午後一時五十七分開議

出席委員

委員長 關内 正一君

理事鈴木 仙八君

理事山崎 岩男君

大野 公義君

岡本 忠雄君

南條 徳雄君

白井 莊一君

楠 兼次郎君

中居英太郎君

館 俊三君

委員外の出席者

運輸政務次官 岡田 信次君

運輸事務官(鉄道監) 細田 吉藏君

督局(有鉄道部長) 山口 伝君

海上保安庁長官 北村 純一君

運輸事務官(中央氣象台総務部長) 肥沼 寛一君

運輸技官(中央氣象台予報部長) 長崎惣之助君

道總裁 公文 広嗣君

日本国有鉄道参事(營業局陸軍課長) 篠田寅太郎君

日本国有鉄道参事(營業局船舶課長) 堤 正成君

専門員 堀 正成君

九月二十九日

委員堤康次郎君及び小平忠君辭任につき、その補欠として白井莊一君及び辻文雄君が議長の指名で委員に選任された。

本日の会議に付した事件

委員派遣に関する件

参考人より意見聴取の件
台風第十五号による洞爺丸遭難事件等に関する件
国鉄青函連絡船洞爺丸沈没事件に関する件

○關内委員長 これより開会いたします。

台風第十五号による洞爺丸遭難事件に関する件について調査を進めます。

○竹谷委員 昨日本委員会において洞爺丸沈没遭難事件に關しまして、本委員会として政府並びに日本国有鉄道に對しまして、これが善後措置並びに對策について万全の方策を講ずるよう要望するところの決議案について、審議すべきことを動議として提出したのであります。留保となりまして、本日審議したいということでございますが、冒頭においてこの決議案について御審議願いたい。またその文案は委員長に御一任申し上げるということにいたしたいと思つておりますが、どうぞよろしくおとりはかりを願います。

○關内委員長 ただいま竹谷委員よりお述べになりました件につきまして御審議願います。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

れたる各位に對し深甚なる哀悼の意を表すると共に、本件の重大性にかんがみ、政府及び国鉄は其の責任を痛感し遭難者に対する弔慰、補償並びに事後の措置につき万全を期するよう強く要望する。

なお、今回の如き惨事を再び惹起せざる為、速かにあらゆる角度よりこれが原因を究明して對策を確立し、氣象業務施設の整備拡充、特に南方定点観測の整備、北方定点観測の復活について、本委員会が再度に直り決議せる趣旨に基き、必要且つ適切な措置を講ずべきである。

右決議する。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

なお時日、人選等については、委員長に一任願いたいと存じますが、これに御異議ありませんか。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

○關内委員長 御異議なければさよう決します。

そこでその当時青森からも函館の方に向う連絡船も当然あつたはずで、これがどの程度にやはり欠航の決定をしておつたものかどうか、また十一青函丸以外にもやはり欠航を決定したものがあつたのですかどうか、その点をちよつとお伺いしたいと思います。

○篠田説明員 その当時十一青函丸が欠航ときまりましたあとにも、船は動いておるのでございます。青森から出ました第八青函丸並びに石狩丸が函館の港内に到着いたしましたのが、第八が十七時四十五分、石狩丸が十八時四十分でございます。しかしながらこの船は岸壁がふさがつておりましたので、岸壁に到着することはできませんでした。

○白井委員 その後に、十八時以後に出る予定になつておつた船で、欠航したのはございませぬでしたか。

○篠田説明員 十八時以後に出る予定になつておりますのは、六便という船がございまして、客便でございますが、これが大雪丸でございます。大雪丸は函館を十六時五十五分に出る予定でありましたが、これはとりやめになつております。

○白井委員 今ここでそれを詳しく問答しておることもどうかと思つたので、他の委員の御参考にもなると思つたので、そのときの各予定船の欠航したものを表にでもおつくりたいので、資料として適当なときにお出しをいただきたいということをお願いいたします。

上げますのは、新聞によりますると、この洞爺丸が出港をいたしましたことについて、海洋気象台は、こんなときに出港するといふことは無謀である、そういうことを新聞に発表しているわけでありますので、特に伺いをするわけであります。

○肥沼説明員 気象台と国鉄の間には鉄道気象通報という、これは国鉄總裁と中央気象台との協定がございまして、その連絡をふだんやっております。中央気象台は国鉄本庁に對しまして全般的のことをお知らせし、各地ではその土地の国鉄の当局と気象台との間に連絡がとれるようになっております。函館に關しましては、昨日二十六日の午前七時と申し上げたかと思ひますが、これは八時のようでございます。八時に風雨注意報というのを出してございまして、そのあとのことと申してございまして、これは状況がかわればできるだけ密接に連絡をとるといふ規程になっております。どの程度のことをやつたかという非常に詳しいことろまでは、私どもの気象専用線があの当時切れてしまいましたので、わからなかつたのであります。大体今午つからしておりますところでは、十六時に放送局から気象の情報として発表しております。情報と申しますのは、前に発表した警報を説明し、あるいは多少修正するという意味のものを申すわけであります。次に二十一日、これは事件のあとだと思ひますが、これも放送局から出してあります。それから責問局指令室あてのは、最初のは午前八時でありまして、そのときの情報を知らせております。それから十一時三十分、

これは一般の警報を出した三十分後であります。連絡をいたしてあります。

○榎委員 詳細なる連絡状態をつかんでおられないということでありまして、これ以上質問することはできませんが、この気象関係の連絡としては万全とは行なかつたけれども、いわゆる気象通報の打合せということが所定通り行われたかどうか、慣例通り行われたかどうかという点を、ひとつ気象台の方にわかつておつたら伺ひたい。それから国鉄にも伺ひたい。

○肥沼説明員 国鉄当局と気象台とは、たいてい一年一回一番災害の多いところ、北海道に關しましては冬季が多いのであります。それ以前の夏か秋に連絡会を持つて、ことしは特にどういふことを注意しようという連絡はやつてはおります。私は二年ばかり前まで札幌の台長をやつていたのであります。それはやつておりましたので、現在も多分統いておるか存じます。規程のこと実は実施されてきたらうと存じます。ただ新聞その他の報道によりまして、函館ではいろいろの通信がかなり

混乱をしたというようなことが報じられておりますので、実際面としてそれが行われたかどうかは、よくまだ私存しないのでございます。

○長崎説明員 たいへん調査が手聞取つておりました。申訳ない次第であります。昨日も申したように、私どももいたしましてはまず第一に遭難者の収容、救護、弔慰という面に、全力を傾けておるような次第でございます。昨日あたりからようやく御質問のような詳細な点についての調査を始めたのでございます。それはやつぱり現地を把握することが一番大事でありまして、東京等においていろいろの臆測をすることは、むしろ害があつてもいけないというふうに考えます。昨日の御質問の趣旨もあり、現地に行つております副總裁にもよく連絡をいたしまして、順次取調べをいたして行きたいと思つております。ただいまの御質問に對しましては、今午報連長さんからお話がありましたように、規程にきまつておりますものは的確に行つておつたと思はれます。しかしそれが通信の障害その他によつてどういふうに混乱されたおつたか、あるいはそれ以外にどういふ連絡があつたかという点については、実はここでまだお答えできないような状態でありまして、これは遺憾に存じます。

○榎委員 被災者の救済について当面万全の措置を講ずるという点については、私もまつたく同意でございます。昨日、今日の新聞、ラジオ等の伝言るところによりまして、これは私ばかりでない、國民が一番疑問に思つておるのが、気象関係では私が質問をしたようなことであらうと私は考える

わけです。これがいいにしろ悪いにしろ、連絡がでなかつた、あるいは連絡をされた、こういうことがはつきりと報道されなければ、國民の疑惑が解けない、こういう観点に立つて質問をいたしております。今後の調査においてもそういう面を十分考慮して、ひとつ検討をしていただきたい、こういうふうにお願ひを申し上げます。

次に私どもが疑問に思つておりますのは、冒頭に申し上げましたように、船がなぜ港を離れたかということでありまして、離れなければいまだ違った場面から災害をこうむる、こういうようなことも私はあるいはあり得ると思ひますが、國民が今疑惑に思つておられますのは、なぜあんな状態のときに出港をしたのか、この点が私は非常に疑問に思つておる点だと思ひます。また生き残つた方たちのお話を聞きました。それが両論にわかれて對立しておるような状態でありまして、この点について私質問をしたいと思います。この点について私質問をしたいと思います。まずこの事件が起きましてから新聞等を読みますと、出港をする権限といふことが、責任が全部船長にある、こういうような印象を私どもは受けるわけでありまして、これは二十八日の新聞であります。これは二十日のおるの時は時事新報であります。ほとんどの新聞が篠田船長課長の参議院の運輸委員会で説明をいたしました要旨を発表いたしております。それによりまして、「欠航するか運航するかを判断は長い経験を経んだ船長に判断にまかすことにしている」ということと、ところが私どももいろいろとありますが、国鉄の行政機構を考へました場合には、どうもこの文句を読んで納

得が行かない。私のしろうと考へて申し上げますと、船を運航する最終的な権限といふことが、そういうふうには、これは管理局にある、こういうふうには、私ども考へておるわけでありまして、管理局においては船の運航について何ら指令をする権限がないのか、この点をまず第一にお聞きしたいと思ひます。

○篠田説明員 それは少し言葉の足りなかつた点もありませんので、なお御説明を申し上げます。船を動かす以上は、ある一つの一般の会社でもスケジュールを組まなければならぬのであります。御承知のように陸上の列車との接続その他がありますので、一応ダイヤを作成いたしました。この船はこの便を受けるといふ一応の指令は出ておるわけでありまして、ただこういう天候、気象、航路障害その他のことによりまして、出るか出ないかという問題、これは法規にもきめられておりますし、また私の方の規程にも船長の権限にまつておるのでございます。實際の運用面につきましては、その場合船長の判断によりまして、それをただ黙つてやつてしまつたものでは陸上のダイヤとの連絡もつきませんものですが、目下の状態はこういう状態であるから自分はどうするということを、一応管理局に連絡をいたしまして、それでそういう措置をとるといふことになつております。

○榎委員 船長課長のお話を聞きまして、出港の権限が船長にあるということとを非常に強調されておられますが、航海中ならば、私はこれは当然だと思ひます。しかし今港を出帆するかどうか

という点については、船長の進言といふものは大きな要素をなすであらうことは考えられますけれども、やはり最終の決定は海務課の運航指令にある、こういうふうな考えなければ、今日の国鉄の機構の面からいっても論理が成り立たぬではないか、こう考えますか、その点はどうか。

○篠田説明員 陸上の列車とその点は違ひまして、船舶には一応一般の法規でそういうふうなきめられておりますので、私の方としても直接そういう場合の運航を指令するという事は一応いたしております。

○榎委員 たいま船舶課長が言われたように、その船の航行については全責任が船長にあるということも職制上、服務規程というか内規というか知りませんが、そういうことがはつきりとおなた方の規程にうたつてあるかどうか、こういうことをお聞きしたい。

○篠田説明員 それは一般の法規でもうたつてありますし、国鉄の服務規程でも先ほど申し上げたようなことがうたつてあるわけでありませう。

○榎委員 そうしますと、船が何分に来て何時の接続であるという報告の収集といふ事か、そういうことのみをやつておるのが海務課の仕事であるかどうか、この点をお聞きしたい。

○篠田説明員 これはこういう台風であるとか、特殊な危険状態にある場合は別でありまして、平常においてはあれだけの船を使いますと、船が非常に遅れたりしますと、そのかわりを出さなければならぬので、船繰りをおこなったり、あるいはその場合に接続の列車を遅らしたり、何か調整をしなければならぬ、その調整が最も輸送を円

滑にやる方法なのです。そのために完全に全なる一貫した輸送をやるといふことが主たる任務になっております。

○榎委員 それでは、そのことについてはわれ／＼調査に参りまして今後よく調べたいと思ひますが、常識的に考えまして、あなたの発表と当時の模様とで何か抜けておるところがないか、こういうふうには私に考えます。といひますのは、大体常時二十五メートルから二十七メートルのときには船は就航をしておる、こういうことを発表になつておられます。ところが、あの転覆の原因の第三にどういふことを言つておられるかといひますと、暴風警報で二十五メートルの強風が吹くこととはわかつていたが、五十メートルを越える予想以上の突風に変わったこと、この悲劇を生んだ原因ではないだろうか、こういうことをあなたはおつしやつておられます。ところが最高三十メートルの風が吹くといふことは、あなた自身ここで発表になつておるよう

に予測しておつた。従つて、出航の権限が船長にあると仮定をいたしましても、上司間において船を出すべきか欠航すべきか、こういうことが相当論議をされておつた。私は考えておるわけでございます。ところが今日までその間の消息といふものは、ほかのこととは新聞紙等に発表になります。全然発表になつておりません。よろしく、今日、会議をやつたとか、あるいはそういうような打合せが行われたのじやないかといふことが、この被害からのがれまして方たちの意見として発表になつておる程度であります。こういう国民が一番疑惑に思つておるところの出すべきか欠航すべきかといふような

点について、あなた方は積極的に当時の模様を発表する責任があるし、また発表しなければ国民が疑惑を持つ。こういうことは常識として当然考えなければならぬことでありまして、今日までのその間の消息についてなほ御発表にならなかつたかといふ点をお伺いしたいと思ひます。

○長崎説明員 まことにごもつともな御質疑であり、また国民各位並びに遭難せられた方々の御家族、御友人の最も関心を持たれる点の一つだろつと思ひます。しかしながら、これにつ

きましてはやはり相当慎重なるいろいろな調査が必要でありますし、関連するところも国鉄だけじやない、国鉄だけの考えではできないのでありまして、いろいろな点を十分にしかも迅速に正確に把握しなければいかぬといふことを私は考えております。現在現地に副船長その他行つておりますし、運輸大臣も政府の代表者として行つておられますので、それと十分に連絡をとつておりますが、いまだ確信のある見解を発表することのできるような状態になつていないといふことは、返す返すも遺憾でございますが、もう少しお待ち願ひたいと思ひます。

○榎委員 今船長の答弁を聞いたのでございまして、運輸すべきかあるいは欠航すべきかといふことについて、こういう打合せが行われた、あるいはこういうことがあつたといふことを、率直に国民の前に発表していただかなければ、まず／＼疑惑を深めて行く、私はこういうことを言つておるわけでありませう。長崎船長の前に、他の関係が深いから慎重考慮しておるといふこ

とでは、国民が納得をしない。ほかの問題はど／＼と発表になります。このことについては他を顧みて考慮されておるといふことでは、どうしても納得が行かない。しかし今それを申し上げましても過ぎ去つたことでありするから、そういう疑惑を解くように今後は調査を進めて行つてもらひたい、私はこういうことをお願い申し上げます。

それからわれ／＼の常識で行きますと、人命、財産を預かつておられます。これは陸でも海でも同じであります。小さい故障であつてもとにかく安全第一の立場をとらうといひます。列車をそこで運休にする、あるいは海においても私はこの考え方は同じだろつと思ひます。非常に危険だ、な

るほど二十五メートルならば運航したかもしれないけれども、すでに三十メートルの風が吹くといふことが予測されておる。私は船長としてここで当然欠航すべきである、こういう考え方があつたといふことは推察することができません。また鉄道の幹部といひましては、また危険な場合には列車を動かしてはいけぬ、船を動かしてはいけぬといふような指導方針で、今日まで進んで来られたといふふうな聞いております。またこれは当然常識であります。従つて当時の模様を推察いたしますが、これはあくまでも予想でありませう。おそれる船長はこれではいけないから欠航をしたい、心中にう思つておつたであらうといふふうに私も推察をいたしておるわけでありませう。ところが先ほど日井委員からも

指摘をされたのでございませうが、他からの要請があつたのか、あるいは自発的であつたのかは知りませぬけれども、とにかく危険を冒して出航をしておる。私はその原因は先ほど申し上げましたように、どうしても二十八日の局長会議に参加するために、いわゆる国鉄の地方幹部が乗船をした。これは私はいやがらせで言つておるわけではございませぬ。自発的であらうと、他から要請されたかわかりませぬけれども、とにかく船長が心に危懼を持ちながら、あえて出帆をしたといふ原因は、やはり地方幹部が乗船をしておつたといふところに一つの原因がある。こういうふうには私は想像であります。私が考えておるわけでございます。それを裏づけるようにきょうの新聞を見ますと、たとえば生き残つた水夫談といふので、幹部乗船で強行出航といふことも出ております。それから船長に

出航の圧力があつたのではないかと、こういうことも新聞に出ております。こういうふうな水夫の話、あるいはボーイの話、あるいは一等船客等の談を総合いたしますと、私が今申し上げておることもまんざら架空ではないといふふうには思はれるわけでございます。従つて国民の疑惑を解くために、私は責任の所在がどこにあるかといふことは海難審判庁でやつていただくこととあります。とにかくその経緯といふものを疑念の起らないように、今後はひとつ率直に発表をしていただきたい、こういうふうな考えを述べ

それからわれ／＼も経験があるのをごいひます。なるほど幹部は強制をしたのではないといひましたも、やはりこういう場合に部下として

は危険を冒しても、出航しなければならぬというふうな気分になることは、長崎総裁と私の関係ではちよつと考へられぬのでございませぬが、普通の今日現場で働いておられます人たちの考へ方から行きますと、このことについては笑いでございませぬ。従つてこの方面におおむね思ひます。従つてこの方面についても行政上ひとつ今後十分考へていただくかなくてはならない、こういうふうにかへるわけではございません。それから船長の権限でございませぬが、職制上どういふような権限がうたわれておるか知りませぬけれども、とにかく他の権力といひませぬか、他の力に制肘をされぬように、船長がほんとうに運用するのにかた航するのにかつ自主権を、今後は行政上はつきりとして打出して行く必要があるといふふうにも考へますので、この点も今後の対策としてひとつ十分検討していただきたい、かように申し上げるわけでございます。

次に被災者の弔慰と救済についてお伺いしたいと思います。新聞等によりますと、国鉄の対策本部はとりあえず生存者に一万円、死亡者に六万五千円の見舞金を出すといつておられますが、どの新聞を見ましてもとりあえずという言葉が使つてありませぬ。国鉄としてはその後の処置についてどのような構想を抱かれておられるのか。この点長崎総裁のこれらの遭難者に対する救済の構想をお聞かせ願ひたいと思ひます。

○長崎説明員 非常に適切な御注意でありませぬが、船長の出航あるいは出航しないというふうなことにつきましては、一般船舶の場合とわづ／＼のと

ころと異なるものではないのでありませぬ、法律によつて明白に船長に自主権が認められてお存じませぬ。この点は法律でございませぬから、われ／＼の方の規程でもつて曲げることはできません。でありますからその間にいかなることがあつたかといふような想像はいろいろできるかも知れませんが、法規上は明らかに自主権があると私は考へます。また先ほど日井委員にもお答えいたしましたように、風説と申しませぬか、そういうふうなことを申すこともありますが、さつき申し上げたように、二十八日の午前に会議が開かれるのでありませぬ、それまでは十分間に合つておられますが、あの船に乗船していただいております。さういふわけでも、またあの会議の内容そのものも事前に通知してありますので、その緊急な、緊要欠くべからずというほどのものでもない。ただ事務上の繁忙期に入りまして、国鉄の当面するいろいろな問題、あるいは現在まで経過して来ました成果などについて、今後の心組みといふようなことを相談しようといふことでもございませぬ、一刻を争つてせむその時間までに間に合はせなければならぬといふ性質のものでないことは、局長たちも十分承知してあります。半日やそこら遅れて来まして、二十八、九日とありませぬ、さらに北海道の人たちが遅れて来れば、あとで半日くらい延ばしてもさしつかえないことは十分承知しておりますから、そういうことは私は万ないし確信いたしました次第であります。

遭難者を今後どうするかということ

につきましましては、今夜石井運輸大臣がお帰りになりますので、追つかけてまた天坊副総裁も大体の用を済ませて帰つて来ますので、その上でいろいろの点を勘案して、前例等をも参酌し、いろいろの観点から十分な考慮を払い、同時にまたその前例等に必ずしも拘泥することなく、政府と十分な連絡をとりて処置して行きたい、大きな構想として、そういうふうにかへておられます。

○榎委員 その点について二点ばかり……今夜運輸大臣が帰つてから、この問題について政府の態度を決定されるのでありますから、ここで運輸次官並びに総裁に強く希望を申し上げたいことがあるわけではございませぬ。それは遭難者の中には外国人、それから一般の公衆、職員、こういうふうな三段あるわけではあります、これらの人々に対する救済についての取扱いであります。私はこれは当然同一取扱いで行かなくてはならない、こういうふうに考へます。区別といふようなことはあり得ないと思ひますが、この辺のあなた方の御覚悟をひとつお伺ひしたいと思ひます。

○岡田説明員 ただいまの榎委員のお話でございませぬが、先ほど来お話がございませぬように、運輸大臣が今晩帰つて参りますので、政府といたしましては、それから具体的のことにとりかかるともそれと相なつておられますので、ただいまの御意見につきましましては十分運輸大臣に伝えて善処したい、かように考へます。

○榎委員 それからいふ一点は、新聞によりませぬと福永官房長官は、国家補償を十分に研究する、こういうことを発表いたしましたのであります。それから昨日

の新聞では愛知産産相は、国鉄に十分にかまわねばならないといふようなことを発表いたしましたと思ひますが、私は長いこと言ふ必要はないと思ひますが、今このこの悲惨なる問題は、政府全体の問題として当然政府が補償すべきものである、こういうふうにかへておられます。あります、次官並びに総裁としてはどういふふうにかへておられますか、この点もあわせてお聞きしたいと思ひます。

○岡田説明員 昨日この委員会の御要望もございませぬので、当委員会の散会後、私官房長官と会談いたしました。これを伝えた次第でございませぬ。内閣といつたしまして昨日午前この問題につきまして非常に論議をされたのでございませぬが、もつて政府全体の問題としてこれを処理して行こうといふことに意見の一致を見たのであります。何分主管大臣が帰つて来ないので、これが具体的の方策は、主管大臣が帰つて急遽きめたいといふふうにかへておられます。ただいまお話の官房長官談の國家補償の問題、あるいは愛知大蔵大臣代理の國鉄自体でまかなえるといふこともお話はございませぬが、私はまださういふ点は聞いておりませぬが、おそろしく今回の問題は國鉄自体だけで解決することは非常に困難であろうと考へます。またこの点について私といつたしまして、すでに愛知大蔵大臣代理等にも一応の申入れはいたしてございませぬ。

○長崎説明員 ただいま政務次官からお述べになつたこととまつたく同じような考へを持っておりますが、現在の國鉄の財政状態、収入の状態その他から見まして、この未曾有の大きな被害についての負担といふような点になりませぬ、これはどうも何らかの措置を講じてもらねばならない、たいへんなことになると考へておられます。これはひとり遭難者に対する御処置の問題だけではございませぬ。何しろ連絡船の約三割以上、四割近いものがあつて、損傷を受けたのでございませぬ、北海道と内地との連絡といふものも今後どう処置して行くかといふ点について、これは早急に策をとらなくてはならぬのであります。それに対する船舶の新造、補修といふような問題については、これは國鉄だけの力では早急に行かないのではないかといふような大きな見通しをいたしてございませぬ。しかばどのくらいどうなるかといふことはまだ計算はいたしてございませぬが、どうも私の見るところでは、仰せのように國に何か助け舟を出していただかないことには、國鉄だけでは早急には回復できないのではないか、はなはだ遺憾であります。そういう実情であろうと思ひますが、今後ともよろしく皆さんの御協力御援助をお願いいたしたい次第であります。

○榎委員 いろいろこまかい質疑、要望については、調査のあとになると思ひますが、この際私は二点ばかり政府に要望しておきたいと思ひます。これは、國鉄は世帯が大きいので、昨年の水害でもさうであります。まあ自分のところでもまかなつて行け、あらゆる災害に耐へて、そういうふうなないまいな態度がとられて来たと思ひます。しかし國鉄の企業といふものは、陸であれ海であれ、とにかく

五

一步誤れば人命、財産に重大な影響を与えるという企業でありますから、これを契機といたしまして国鉄の企業は相当違う、こういう点を再認識していただかなければならぬと思います。話はそれませうけれども、たとえレールでも、この前の委員会等にもお話があつたのでありますが、寿命の切れたような、規約の年限を越えたようなレールの上に乗つてわれ／＼は旅行をしておる、そういうようなお話も聞いたのであります。それではいつどういふ事故が今後起らないとも限らない。従つて今後はこれらの老朽荒廢施設については、政府に十分ひとつめんどろを見ていただいて、今後こうした人命、財産に損傷を与えるような事故が起らないように、万全の措置をとつていただきたいと思つておる。そのためには財政措置も必要であるわけでございまして、なか／＼この点がい／＼な問題が起ることに解決されておらないので、本問題を契機といたしまして、そういう面の改善についての財政措置といたつても十分考慮していただきたい。

それからいま一つは、新聞等にもやがましきいわれておりますが、この問題を契機といたしましてい／＼ゆる青函トンネルの問題が上つて来ております。遭難直後でありますので、今ここで本問題の詳細につきましても質疑はいたしませんけれども、ただこうした問題が起きたから、青函トンネルといふものを考えなくてはならないのではないだろうかというふうな考え方は、これは国民を欺瞞し、本問題の責任をそらすというふうな点になつていけないと思つて、従つて今後は青函トンネル

が完成するように、具体的に真剣にひとつ本問題を検討していただきたい、このことだけを要望いたしまして、私の質問を終わりたいと思つておる。

○日井委員 ちよつと一、二点お伺いしたいのですが、橋委員の質問に対して總裁のお答えの中で——決して私は何もあげ足をとるのではないのです。船長に出港を余儀なくせしめるような、何か他から圧力というか、そういう事情があつたのじやないかという点、一般に非常に疑惑に思われてい

るのです。ところがこれに対して法律上では明瞭に、船の運航は船長の責任である、こうなつておるから、そういうことはあり得ないというふうなお答えのように聞いたのですが、法律上はそうあつても、実際上はたとえ先ほど申し上げたように、北海道の総支配人その他幹部の人が乗つておる。そして当然ブリッジにも来るでしょうし、いろいろ相談にもあずかるでしょう。そうなるに船長は多年老練な人であつても、やはり格から言つて部長、課長の間だといふことを聞いておる。そうするとやはり発言力の強さといふものは、非常に違ふのじやないかといふ点が考えられるのであります。従つてそういう圧力があつたと私は申し上げるのではありませんが、当時のことをあらゆる面から検討して、事実の有無等について、今後のこともございまして、ひとつよく御調査をいただきたいといふことを特に申し上げておきます。

それから私もちよつとつばめであの二十六日に舞鶴に引揚げの援護の調査に行くことになつたのですが、台風が来る、そうするとつばめも途中で危険

なこともあるのじやないかというふうなふと思つた。できれば延ばしたいと思つた。ところが入港の都合もあろうし、また不通にでもなると行けなくなつてしまふというので、多少無理して行つて、そこは国鉄だからと思つて信頼して乗つたのです。危険なら途中でとまるだろう、こういうふうな感じに

くらしい台風であつた。そうするとこの津軽海峡は特殊の氣象状況で、非常に突風が起りやすいために、渦巻の風が起りやすいという状況にあるといふことを聞いたのですが、そういう点であれば、船長として当然これは人命を大事にする方が正確といふことよりはむしろ大事じやないかと思つたので、どうもその点がわれ／＼は納得が行かないのです。

もう一つお伺いしたいのは、もちろん青森まで行くつもりで出たのだと思つて、かゝりに外に仮泊するつもりで出たのだと思つて、乗客を乗せたのはおかし。ところがあの設備が、千名から千二人程度収容する余裕は十分あるのでございませうか。その点をひとつお伺いしたいと思います。

○篠田説明員 在来も船が欠航その他をいたしまして泊つた場合があるのですが、大体一便ぐらゐの人は駅の本屋とさん橋の待合室、非常に狭いながらも入れるという状況にありました。青森側は現在工事をしておりますので、現在では無理かと思つておる。

○日井委員 どうも私たちがあそこを通りまして、あれはやはり非常に手狭

である、またそういう仮泊を構内でするといふ場合には、施設に足りないよ

うに思つた。これは将来のために、はやはりそういう点を十分、もし足りなければやはり整える必要が将来あると思つた。その点をひとつ申し上げておきます。

それから私もちよつとつばめであの二十六日に舞鶴に引揚げの援護の調査に行くことになつたのですが、台風が来る、そうするとつばめも途中で危険

なこともあるのじやないかというふうなふと思つた。できれば延ばしたいと思つた。ところが入港の都合もあろうし、また不通にでもなると行けなくなつてしまふというので、多少無理して行つて、そこは国鉄だからと思つて信頼して乗つたのです。危険なら途中でとまるだろう、こういうふうな感じに

くらしい台風であつた。そうするとこの津軽海峡は特殊の氣象状況で、非常に突風が起りやすいために、渦巻の風が起りやすいという状況にあるといふことを聞いたのですが、そういう点であれば、船長として当然これは人命を大事にする方が正確といふことよりはむしろ大事じやないかと思つたので、どうもその点がわれ／＼は納得が行かないのです。

つきましてはただいま日井委員から御質問がございまして、私は何といたしましても今度の災害といふものは、あの客船と貨物船と一緒であるといふことに欠陥があるという点を、常々あの連絡船と生活をともにしておる私どもであるがゆゑに、痛感せざるを得ないの

でございまして、ちよつと沈没原因の概況を見ましても、船尾から大波が浸入して来て、次には貨車の甲板に浸水して来た、浸水のために発電機が使用不能になつた、船内が全部消燈して通信不能になつた、そうして、うちに貨車の緊縮具が切斷した、貨車が転覆してその次には船体が転覆しておる。こういう原因を探求いたしますと、私は審判庁の審判をまつまでもなく、船の

ひとつの欠陥がこういうところにあるのじやなからうかといふことを痛感せざるを得ないのでございまして。船のちよつとまん中の重点といふところか、その重点のちよつとちよつと合ひのところ、貨車を積んでおるのでありますから、船の復元力といふものはこの貨車のために減殺されておる。従いまして一旦倒

て今度の遭難事件に對しましては、言葉もなき状態にございまして。ちよつと私は本委員会から九州地帯の災害と因鉄並びに港灣等の災害状況調査のために派遣を命ぜられまして、その調査の途中であつたのであります。その調査も、事件がまことに重大な事件でござい

ますので、予定を変更いたしました。昨昨帰つて来たようなわけにござい

ます。まことに遭難された方々に對しましては哀悼の言葉もない次第でござい

ます。この際つしんで私は敬書のまことを捧げたいと存じます。

つきましてはただいま日井委員から御質問がございまして、私は何といたしましても今度の災害といふものは、あの客船と貨物船と一緒であるといふことに欠陥があるという点を、常々あの連絡船と生活をともにしておる私どもであるがゆゑに、痛感せざるを得ないの

でございまして、ちよつと沈没原因の概況を見ましても、船尾から大波が浸入して来て、次には貨車の甲板に浸水して来た、浸水のために発電機が使用不能になつた、船内が全部消燈して通信不能になつた、そうして、うちに貨車の緊縮具が切斷した、貨車が転覆してその次には船体が転覆しておる。こういう原因を探求いたしますと、私は審判庁の審判をまつまでもなく、船の

ひとつの欠陥がこういうところにあるのじやなからうかといふことを痛感せざるを得ないのでございまして。船のちよつとまん中の重点といふところか、その重点のちよつとちよつと合ひのところ、貨車を積んでおるのでありますから、船の復元力といふものはこの貨車のために減殺されておる。従いまして一旦倒

て今度の遭難事件に對しましては、言葉もなき状態にございまして。ちよつと私は本委員会から九州地帯の災害と因鉄並びに港灣等の災害状況調査のために派遣を命ぜられまして、その調査の途中であつたのであります。その調査も、事件がまことに重大な事件でござい

ますので、予定を変更いたしました。昨昨帰つて来たようなわけにござい

ます。まことに遭難された方々に對しましては哀悼の言葉もない次第でござい

ます。この際つしんで私は敬書のまことを捧げたいと存じます。

つきましてはただいま日井委員から御質問がございまして、私は何といたしましても今度の災害といふものは、あの客船と貨物船と一緒であるといふことに欠陥があるという点を、常々あの連絡船と生活をともにしておる私どもであるがゆゑに、痛感せざるを得ないの

でございまして、ちよつと沈没原因の概況を見ましても、船尾から大波が浸入して来て、次には貨車の甲板に浸水して来た、浸水のために発電機が使用不能になつた、船内が全部消燈して通信不能になつた、そうして、うちに貨車の緊縮具が切斷した、貨車が転覆してその次には船体が転覆しておる。こういう原因を探求いたしますと、私は審判庁の審判をまつまでもなく、船の

ひとつの欠陥がこういうところにあるのじやなからうかといふことを痛感せざるを得ないのでございまして。船のちよつとまん中の重点といふところか、その重点のちよつとちよつと合ひのところ、貨車を積んでおるのでありますから、船の復元力といふものはこの貨車のために減殺されておる。従いまして一旦倒

て今度の遭難事件に對しましては、言葉もなき状態にございまして。ちよつと私は本委員会から九州地帯の災害と因鉄並びに港灣等の災害状況調査のために派遣を命ぜられまして、その調査の途中であつたのであります。その調査も、事件がまことに重大な事件でござい

ますので、予定を変更いたしました。昨昨帰つて来たようなわけにござい

ます。まことに遭難された方々に對しましては哀悼の言葉もない次第でござい

ます。この際つしんで私は敬書のまことを捧げたいと存じます。

つきましてはただいま日井委員から御質問がございまして、私は何といたしましても今度の災害といふものは、あの客船と貨物船と一緒であるといふことに欠陥があるという点を、常々あの連絡船と生活をともにしておる私どもであるがゆゑに、痛感せざるを得ないの

でございまして、ちよつと沈没原因の概況を見ましても、船尾から大波が浸入して来て、次には貨車の甲板に浸水して来た、浸水のために発電機が使用不能になつた、船内が全部消燈して通信不能になつた、そうして、うちに貨車の緊縮具が切斷した、貨車が転覆してその次には船体が転覆しておる。こういう原因を探求いたしますと、私は審判庁の審判をまつまでもなく、船の

ひとつの欠陥がこういうところにあるのじやなからうかといふことを痛感せざるを得ないのでございまして。船のちよつとまん中の重点といふところか、その重点のちよつとちよつと合ひのところ、貨車を積んでおるのでありますから、船の復元力といふものはこの貨車のために減殺されておる。従いまして一旦倒

れるというような状況になりますと、復元力を失いまして、船が転覆するの
でなかるうかという事は、常々私が
考えておつたことなのでございます。
そこで私ちよつとお尋ね申し上げたい
のでございますが、戦争終結のちよう
ど一年ばかり前でございますが、青森
港におきまして貨車船が一隻非常な暴
風雪のまつた中に沈没したことがご
ざいます。乗り組んでおつた人のう
ち、助かりました人はたつた三名、あ
とは全部沈没の船と運命をともにした
のでございます。この事情について研
究を遂げておられたならば、この津軽
海峡というものがいかに腐の海である
かという点について、国鉄当局も運輸
省当局も判断がつこうかと思うのであ
ります。あの当時沈没した船はどうい
う原因によつて沈没したのであるか、
ただいまの政務次官やあるいは国鉄総
裁も、その当時におきましてはいわゆる
鉄道省の幹部であられたはずでござ
いますので、この当時沈没しました原
因は戦争のまつただ中でありましたた
めに、これは世間に知られずじまつ
たのであります。この点について御存
じでありましたならば、この際ちよつ
とお漏らし願ひたいと思ひます。

出た方が安全であるというわけで、か
じをとりまして港外へ脱出すべく努力
したのであります。そのときに東方に
圧流されまして、港内の捨石に横腹を
すりまして大きく亀裂を生じまして、
そこから浸水いたしまして、吹雪の中
で、視界のきかないところで沈没して
あの惨事を起したというのがこの事故
でございます。

〇山崎(岩)委員 第五青函丸の遭難と
いうものは岩礁に乗り上げたためであ
つて、船底に亀裂を生じたということ
であります。今度の沈没の原因とは
異なるのでございませぬから、あえて私
は取上げませぬけれども、今度のこの
五隻の船というものは、全部が航送船
であるというところに疑問がありはせ
ぬかと考えるのでございませぬ。あの貨
車積むところから水が入りやすい、
水が入つたら遂に復元力を失つてしま
い、機関もとまり、火を消してしま
う、電燈を消してしまふ、SOSをす
ら発することができないような状況に
あつたのではないかと私は考えるの
でございます。この点について私は思
ひ起したことがあるのであります。思
つても目もちよつと同じ十九年前だと思
ひます。読売新聞は報道しております
が、十勝沖でもつて海軍の大艦隊が大
演習をやつた。その時分に初雪とい
うのと夕霧というのと二艘いたんでお
ります。そのころ私は大湊の町長をや
つておりました。この大艦隊の様子を
町長としてよく知つておつた。船が傷
つていて入港して参りました。ただいま
の初雪と夕霧であつたのであります。
それはどこから折れたかと申します
と、艦橋からへさきの方がぼつくり折
れた。しかもその船は特型駆逐艦であ

りまして、千七百トン級の船でござい
ます。そのころの駆逐艦というものは
千三百トンくらいのものでございませ
ぬが、この船は特型駆逐艦で特別に海軍
が力を入れたところからへさきの方が
ぼつくり折れてしまつた。五十七名の
人が犠牲になつたのであります。この船
がまことに奇麗なことに、そのへさき
がないままにその他の僚艦に引きずら
れて参りまして、大湊に入港して来
た。私どもはまことに驚いたのでござ
いませぬが、あとで聞きましたところ
が、この十勝沖の大台風にあつて三角
波というものがぶつかつて、そうして
へさきが折れた。へさきが折れるほど
の大台風がぶつかつて、そうしてあの
津軽海峡を越えて大湊に入港するため
には、非常な大波を越えて来たのに違
いない。にもかかわらずこの傷つた
船がへさきを失つておりました。ちや
んと入港して来たのであります。なぜ
入港して来たか、それはちやんと部屋
と部屋との間にはりつばなとびらが
つておつて、水が浸水して来ないよう
になつておる。そのためにこれほど傷
つた、へさきを失つた、人間で言うな
らば頭を全然もぎとられた船が二艘
とも入港して参りました。その後にお
いて海軍がこれではいかぬ、駆逐艦は
ただスピードさえ出せばいいのだと
いう考えでもつてこしらへるのは欠陥
であるといふので、今度は造艦の計画
をかえまして、船べりに相当分厚い
ところの鉄板を使うことになつたとい
ふことを私は聞いております。ちよつど
そのころが読売新聞のきよの朝刊に
出ておるのであります。私は十九年
前この目で大湊町長として、その場に

立ち会つておるのであります。入港当
時救難の措置を講ずるために、人夫を
かり出すというふうなことでいろ／＼
働いたことがあつたのであります。船
はこのように沈没しないようにでき
ておるのであります。それが沈没する
というところに欠陥がある。その欠陥
は何だというと、私はただいまこの貨
車の航送船であるということにありは
せぬかとしらうと目に考える。これは
海難審判庁においてあらゆる角度から
研究されることであらうけれども、私
はそのように思ふのでございませぬが、
その点について總裁は何とお考えで
ございませぬ。

〇長崎(岩)委員 航送船というものはど
ういう形であらうか、またいかな
るところに欠陥があり、いかなる次第
で事故を起したのであるかということ
につきましても、もとより今後十分な
調査研究をいたしまして、あらゆる良
知良能を集め、また前例等も参酌いた
しまして万全を期して、今後かくのご
とき事故の起らないように、われ／＼
の力を傾けて行きたいと考えておりま
す。御指摘のような点は十分考慮に値
することではないかと思ひます。

〇山崎(岩)委員 先ほど補委員からも
いろ／＼御質問があつたわけでありま
すが、船が岸壁におればはたして危険
性がなかつたかどうかという点でござ
います。私は岸壁におつてもやはりこ
れは大波のために岸壁にぶつつけられ
て沈没すると思ひます。というのは、
私はこの間九州地方を見て参りまし
て、九州の油津港というところでもつ
て海上保安庁の船が一そう沈没してお
りました。どうしたのだと言ひました
ところ、これは岩壁についておつた、

それが大波のためにたたきつけられ
て、そうして沈没してしまつておるの
であります。従ひまして私は大しけの
時分に連絡船程度の大きな船は、沖の
方に出るといふのが常識だと考えてお
ります。青森に任ををし、大湊に生活
をして来た私は、外へ出るのが当然の常
識だと思つております。外に出るのは
よいが、なぜお客さんをおろさなかつ
たかというところに、今度の責任問題
があると思ひます。お客さんをおろす
のがほんとうだ。それをおろさないで
沖に出たところに、今度の大きな責任
問題があると思ふのであります。そ
の点について總裁はいかがお考えでし
ようか。

〇山崎(岩)委員 昨日来その点につい
て、他の委員の方からも御質問をいた
だいたのであります。その点につい
ての当時の状況というふうなもの、ま
た仮泊に行つたのはなぜであるか
というふうな、まだいろ／＼調査を要
する点がございますので、早急によく
調べまして後刻お答えをいたしたいと
存じます。

〇山崎(岩)委員 調査質問であります
からなるべく簡単に終りたいと思ひま
すけれども、気象関係についてもちよ
つとお尋ねを申し上げたいのでござ
います。それは私九州に参りまして、今
度の十五号台風は富嶺でもつて受けた
のであります。午前三時に台風が参り
まして、たいへんな家鳴り、動揺を生
じまして、私も生れて初めてあれだけ
の大きな台風がぶつつかつた。ところが
一時間くらいでその台風がなごまし
て、間もなく、三十分か四十分を經
て、また台風が来ておる。これが新聞
等の報するところのいわゆる台風の目

〇山崎(岩)委員 調査質問であります
からなるべく簡単に終りたいと思ひま
すけれども、気象関係についてもちよ
つとお尋ねを申し上げたいのでござ
います。それは私九州に参りまして、今
度の十五号台風は富嶺でもつて受けた
のであります。午前三時に台風が参り
まして、たいへんな家鳴り、動揺を生
じまして、私も生れて初めてあれだけ
の大きな台風がぶつつかつた。ところが
一時間くらいでその台風がなごまし
て、間もなく、三十分か四十分を經
て、また台風が来ておる。これが新聞
等の報するところのいわゆる台風の目

〇山崎(岩)委員 調査質問であります
からなるべく簡単に終りたいと思ひま
すけれども、気象関係についてもちよ
つとお尋ねを申し上げたいのでござ
います。それは私九州に参りまして、今
度の十五号台風は富嶺でもつて受けた
のであります。午前三時に台風が参り
まして、たいへんな家鳴り、動揺を生
じまして、私も生れて初めてあれだけ
の大きな台風がぶつつかつた。ところが
一時間くらいでその台風がなごまし
て、間もなく、三十分か四十分を經
て、また台風が来ておる。これが新聞
等の報するところのいわゆる台風の目

〇山崎(岩)委員 調査質問であります
からなるべく簡単に終りたいと思ひま
すけれども、気象関係についてもちよ
つとお尋ねを申し上げたいのでござ
います。それは私九州に参りまして、今
度の十五号台風は富嶺でもつて受けた
のであります。午前三時に台風が参り
まして、たいへんな家鳴り、動揺を生
じまして、私も生れて初めてあれだけ
の大きな台風がぶつつかつた。ところが
一時間くらいでその台風がなごまし
て、間もなく、三十分か四十分を經
て、また台風が来ておる。これが新聞
等の報するところのいわゆる台風の目

であるかと私は考えたのでありますが、
そういう危険のまつた中に、私ども
五時に起床いたしましたので、五時四十分
の汽車に乗り込んだのです。それから
ずつと行を起しまして日向市、延岡市
等に参つたのでございます。ところが
私どももこの台風の進路がどういふ状
態になつてゐるのか。これだけの台風
が、私どもの県の青森県や北海道方
面、あるいは東北地方にも影響を与え
ないのかどうかという点を何としても
知りたいと考えまして、行く駅々で駅
長さんに聞いても、駅長さん不明なん
です。市長さんも不明なんです。何
だと聞いてみたところが、それは電話
やあるいは電線の故障のために、全然
連絡がつかないということなんです
。これは一体どういふことになるの
かと考えておりましたところが、別府
市で、朝まだき、午前六時でありまし
たが、スピーカーを積みまして、た
だの自動車に乗って参りまして、た
だいまのようなことを市民に報じたので
ありまして、これを聞いて愕然としたよ
うな次第です。それまではなか／＼情
報をつかむことができなかったの
です。これは一体どうしたことな
のでした。電信やあるいは電話が破損した
ことのために、九州におるものが青森
や北海道地方のことを全然知ること
を得なかつた。沈没さえ知らなかつた
といふことはどういふことなんでしょう
か。それを肥沼予報部長さんにお尋ね
申し上げたいと存じます。

風の状況を指示報で知らせてお
りまして、同時に、こういう場合には往々に
して通信が杜絶いたしますので、一番重
点をおきますのがNHKの放送でござ
います。十五号台風については前
の十二号、四号ほどに、報道関係が十
分でないかつたという御指摘もあつたよ
うでございますが、大体三時間ごと
に、放送局に資料を流しまして、ニ
ュース報道の時間、それから気象の時
間には必ず放送してゐるわけござい
ます。それから現地の事情は、南
九州で申しますと、鹿児島地方気象
台が宮崎と鹿児島を管轄してござ
います。そしてその下では鹿児島県は鹿児
島の気象台自身、宮崎県では、宮崎の
測候所がその県内の警報を出す責任の
官廳になつております。ただいまの
話ですと、汽車に乗る場合のお話で
ございまして、先ほども申しましたよ
うに、国鉄と気象台の間には鉄道気象通
報の連絡があるはずでございます。か
ら、連絡は多分とつていたはずだと存
じます。気象台の一般的の送放は、ラ
ジオに主としてなつております。そ
のほか新聞その他にたよる。それからこ
ういふ場合には気象台の出す警報、注
意報といふものはぜひ知らせてくれ
ていふような要領のあるところは名簿が
できておりました。測候所から直接お
知らせするようになつております。関
係官庁にはこちらから直接的にお知
らせるような態勢をとつております。
○山崎(岩)委員 ところでお尋ね申し上
げるのでございます。これは私独自の
考え方でありませんが、これは私独自の
なるかもしませんが、私は例の十二
号台風の時分に気象台でとりました処
置というものは、まことに妥当、適切

であつたと思つたのです。しかしながら
まことに幸いなことには、気象台の予
報と全然違つた結果になつたことは、
まことに慶祝にたえない次第なんで
す。しかしながらお役所の方の関係か
ら見るならば、自分らの予報というも
のはことごとく裏切られてゐるとい
ふような関係から考へてみて、今度の十
五号台風についてはもつと緊密なる手
を打つべきであつたにもかかわらず、
十二号台風に驚いて、つまりあつもの
に驚いてなまますを吹くでも申しまし
ようか、非常にそのために適切な処
置を講じることを中心を加へたのでな
かろうかといふことをつく／＼私は考
へたのですが、そういうことはござ
いせんか。
○肥沼説明員 この十五号台風は前の
十二号、十四号といふ／＼の点で違つ
ておるといふことを申しましたが、も
う少し説明をいたしますと、十二号、
十四号は夏型の台風でございます。連
度が非常におそいのでございます。陸
にぶつかると衰えてしまふ性格を持
てておりました。私どもの技術が不完
全で、経路については予想はずれにな
つてしまつたが、性格はそういうも
のでございます。十五号につきましては
これは秋型の台風で、シベリアの方
の冷たい空気と太平洋の方の暖かい空
気の境、つまり不連続線、あるいは気圧
の谷などと申しておりますが、それに
沿つて進行いたしますために非常に速
度が早い。そういう性質を持つてお
ります。そして今回は進行の途上にむ
しろ発達した気味がございましたが、
大体衰えにくいのが性格でございま
す。そういうような状況で進行が早い
といふことは、経路が案外曲らないと

いふ性格を持つておりますので、二十
五日朝台湾の辺から北東に曲りました
あとでは、大体気象台でこまかいこと
ろは、これは多少の問題もございま
す。大体予想のところを進んでゐる。そ
ういふわけではちとしましては、前
の台風に比べてこれを甘く見たとい
ふことはないでございまして。ただこ
れはうわさでございますが、前の十二号、
十四号のような処置をとるのはもつと
あとでもいと思つていたのに、案外
早く行つてしまつたといふことを新聞
記者の方が申してゐたのを聞いたので
ございまして、そういう点ではあまり
に早過ぎて、あつといふ間に行つてし
まつたといふ問題が残つていたかもし
れませんが、そこまでの処置はとれな
かつたことは多少私ども遺憾に存じま
す。
○山崎(岩)委員 新聞等の報道する
ところは、あるいはザトベック台風とか
何とか名前をつけて呼んでゐるよ
うなわけがありますが、気象台として
この際考へてみなければならぬこと
は、あまりに他に依存し過ぎてお
ります。たとえばNHKに頼んでNH
Kでもつて放送する。これも放送機
関ですからあたりまえのことです。し
かしながらそれのみ頼んで、自分自体
の機関を持たないといふことがあるな
らば、これは当然この際正してもし
わなければならぬはずである。電信や
電話といつたようなものも自分自身の
機関を持たねばならぬ。またそれが
故障を起した場合に、他のたとへば
短波の受信機を使うとか、あるいは電
話機を使うとかいふような方法も考へ
て行かなければならぬと考へます。

てみれば、あまりにそういう点につき
ましては龐大な予算を必要とするため
に、手心を加えて今日までなつと思
います。私はこの際気象台に対して
申し上げたいことは、当委員会にお
いて気象台の問題が取上げられたのは、
南点の観測と北点の観測において船が
足りなくなつた場合であります。その
前まではどうしてゐたか。これはアメ
リカの船に依存しておつた。アメリカ
の船に依存しておりましたために、
気象台自体の独自の働きというものは
全然アメリカのみデペンデント・アツ
してしまつて、少しも自分で働きをし
てゐなかつたといふことに私は原因が
あると思つてゐます。それでなかつた
ならば、予算措置の点につきましても、そ
れまで当委員会において昨年のごとく
当然論議されなければならぬはずの
ものであります。実は私は従来から引
続き運輸委員をやつております。第一
回国会から第十九回国会の今日まで、
ばかりの一つ覚えのように運輸委員を
つておるのには、おそらく私一人く
らゐりまして、その私自身がふし
ぎに思つております。あまりにもア
メリカに依存し過ぎた結果が、今度の
ように自分で一人歩きができないよ
うな状態になつてしまつたのではない
かと思つてゐます。この際心を入れか
えてもらなければならぬ。それで新
聞、ラジオ等にあなた方が依存すると
いふ考へ方をやめて、新聞、ラジオば
かりでなく、自分自身の独自の機関を
も持つといふことに邁進してもらわ
なければならぬ、こういう点をひとつ
御注意申し上げたいと思つてござ
います。
今日は関連質問でありますので、は

なはたどうもよけいなことを申し上げて済まない次第であります。もう一点だけ海上保安庁の長官にお尋ね申し上げます。これだけの遭難があつた場合に、函館港にありました海上保安庁本部はどういう活動をされたか、その点についてお尋ね申し上げます。

○山口説明員 函館には海上保安庁の出先機関として、函館海上保安部がございます。この担当海面は、主として津軽海峡まで伸びておるのですが、所属船艇といしましては、七百トン型のだいたい、四百五十トン型のおくじり、りしり、その他に港内艇二隻が配属してあるわけでありまして、今回の連絡船の事故がございました二十六日の状況であります。たまたまこの連絡船の大惨事が起ります前に、すでにこのおくじり、りしりは津軽海峡の方に遭難船救助に出動いたしておつたのでありまして、連絡船の事故が起りましたので、途中からそれを引返されたのであります。これが現場に到達いたしましたのが夜半の零時三十分でありました。そして暗夜に風浪を冒して、できるだけ生存者の救助、死体の収容等をやつたのであります。なおおくじりも相前後して帰つております。それから港内艇の二隻は、ちようど事故の起きた十時から十一時ごろでございますが、その時分には事態を知つたのですが、その港内艇の性能では、あの波浪中ではどうすることもできませんでしたので、これが実際現場で収容作業を始めましたのは、たしか三時から四時か、幾らか風が納まりかけてから出ております。これらも生存者あるいは死体等を収容しております。なおだ

いおうはたま／＼当時小樽の海上管区本部の方に派遣してあつたのであります。これはたしか翌日帰つて、その後救援作業に参加いたしましたのであります。かような状況であります。

○山崎(岩)委員 聞きますと、青森港からパトロール船が一隻救難のため出向いて来まして、これが行方不明になつたという話を聞いたのですが、その詳細はわかりませんか。

○山口説明員 青森の海上保安部に、港内艇二十三メートル型うらなみ、いそなみというのが所屬いたしております。ただいま申しましたおくじり、りしりがすでに二十六日の午後出動しておりますのは、実は青森の保安部のうらなみ、その前に第三期神丸が下北半島の焼山沖で漂流中でSOSが出た参りましたので、まだ台風の前駆時代でありましたので、すでに午後青森を出て、その救援に向つたのであります。現場に到達しまして、風は二十メートルを越しておるような状態でありました。その風浪の中で一旦第三期神丸を曳行すべく綱索をとつたわけでありまして、操縦意のごとくならず、綱索が切斷した。そういうことをやつているうちにうらなみ自体の機関が、これは二つございまして、たしか左舷だと思ひますが、左舷のエンジンが故障いたしまして、とうていこれは救助作業もできないというので、一旦退避すべく第三期神丸と離れたわけでありまして、両方が漂流を始め、なおそのうらなみは片舷で動いておりましたが、その後片舷も間もなく故障で、両舷ストップになつたわけでは、両方が漂流を開始したので、実はこの二

隻を求めて函館からおくじり、りしりが出動したのであります。第三期神丸の方はその後漂流を免見いたしましたが、うらなみにつきましては二十六日の夜はむろんのこと、翌日も夜明けを待つて飛行機も出、私の方の巡視船も一ぱい、みくらという四百五十トン型がこのために下北半島の周辺並びに海峡内を捜索に出ましたが、午後三時ごろの連絡では、何らの船影並びに排煙等を認めずということで、実は私ももううらなみはやられたのではないかと、この悲壮な気持になつておりましたが、その後午後三時三十分ごろ、ちようど焼山沖のすぐ近くでございまして、石崎という部落がございまして、あの絶壁の下の岩の上につかり百八十度転覆いたしました。船体の破損しておるのを見つけまして、なお捜索いたしました。その付近のげげの下に乗組員九名がいるらしく思へたので、それと連絡したところ、そのときの状態ではなお岡に上ることもできないし、救援する手も延べられないので、沖合から信号して連絡しましたら、セイラーの渡辺君が足を負傷しておる、その他は全員無事で岡に上つておるのだということがわかりました。そのことがわかりましたので、まる一昼夜かかつて、昨日のたしか午後の三時ごろになつて、ようやく乗組員の元氣な七名をみくらに収容しますが、打撲傷の方があるわけでありまして、函館のヘリコプターが石崎の部落の付近におりましたので、この二人をとりあえず収容して青森の病院の方へ運びました。そしてなお私ども

が特に乗組員に感心しておりますことは、かような状態で、風浪の中で作業中に自分も危険に瀕して遭難したわけでありまして、船体がかような大破を受けておるのにかかわらず、重傷者類あるいは茶銃等その他は、全部陸へ持つて上つておるのでございまして、大休以上でございまして。

○山崎(岩)委員 人命に損傷のなかつたことはまことに慶福にたえませぬ。御苦勞さんに存じます。私は長崎艦隊に今を去る五年前、青森管理課が廃止になりました際に、つた処置というものは誤りだ、津軽海峡というものは離れず、この海の実相というものに触れずして、いたずらに計画のみをもてあそぶといふことは、必ずやこれは大惨事を起す原因になるぞといふことを断言しておいたのであります。思い合せてまことに涙なきを得ません。私は十分に津軽海峡に対して御研究を遂げたいと思つたのであります。しかしながら幸いにして長崎艦隊が、例の津軽海底トンネルにつきましては計画を發表されて、今年におきましてこの一事によつて、私はたゞいまのうななな災害防止に役立つということに對して、非常に期待をかけておるような次第でございまして、ありがとうございまして。

○函内委員長 館後三君、

○館委員 私が発言を求めましたのは、現地におつて二十七日朝から夜おそくまでかまわつておつたときの状況を聞いてもらいたい、そういう意味で発言を求めたわけでありまして、その中でなお当局の人から御返事いただく

ことがありましたら御返事いただきたい。なお私がこういうことを申し上げますのは、前歴として函館のさん橋助役として非常に長く勤務いたしておりましたので、船の出帆の状況あるいは旅客の乗せ方その他について、非常に長い経験を持つておるのであります。従つて今度の事故についても、い／＼の経験から船長の態度あるいは運航指令の状態その他をい／＼見ておるものと、自分の経験から推してどう判断しているのか、実は経験が多いだけに非常に困つておる状態なんです。そういうことから、この委員会が終了しましたら、すぐ函館に帰つて、もう一べん十分に調査してみたいと思つておられますけれども、経験があるだけにどう見てもおるわけなんです。ですから現地報告みたいにならぬで、いろいろ参考にして見たいと思つたので、整理も、けさまだ着いたばかりでやつておられますから、簡単なことですが、これも、お話ししたいと思つております。

実は二十六日の内地の五〇六列車に乗るために、木村藤八郎先生と二人です。すでに前から予定して特二をとつておりました。二十六日の朝は、松前という停車場がありますが、そこで目をさましたところが、非常な暴風雨なんです。そのために最初の汽車に乗れないで、第二番目の汽車に乗つて函館に着いたのが午後一時半ごろでした。か、しつかり記憶はありませんが、そのころです。私は船のことですから、家内にもう一言おいておいて、渡すつもりでワイシャツその他を取寄せて、そしてそこで家内を歸して二時半ごろに

ことがありましたら御返事いただきたい。なお私がこういうことを申し上げますのは、前歴として函館のさん橋助役として非常に長く勤務いたしておりましたので、船の出帆の状況あるいは旅客の乗せ方その他について、非常に長い経験を持つておるのであります。従つて今度の事故についても、い／＼の経験から船長の態度あるいは運航指令の状態その他をい／＼見ておるものと、自分の経験から推してどう判断しているのか、実は経験が多いだけに非常に困つておる状態なんです。そういうことから、この委員会が終了しましたら、すぐ函館に帰つて、もう一べん十分に調査してみたいと思つておられますけれども、経験があるだけにどう見てもおるわけなんです。ですから現地報告みたいにならぬで、いろいろ参考にして見たいと思つたので、整理も、けさまだ着いたばかりでやつておられますから、簡単なことですが、これも、お話ししたいと思つております。

なりましたけれども、どうも風が治まらぬ。そこで疲れておることでもありません。その晩運よくとまつたのですが、もう午後三時、四時ごろの情勢は非常な暴風雨でありまして、電話も電線もみなだめになつてしまつた。市内は電車がとまる、電話がきかないという状態でございました。

〔委員長退席、關谷委員長代理着席〕

それで湯川の方へ行つてとまつたのですが、ちよつと晩方の五時半ごろと思ひますが、そのころにちよつと暴風がやんだので、その機会に宿から自宅に帰ろうと思つて外に出たのですが、風はちよつと静かでありました。夕焼け雲が非常にきれいに輝いておりました。この夕焼け雲は、子供の時分から風が出るときにそういう夕焼けが光るといふことを聞いておりましたので、腹の中では私はそう思つて帰つたのですが、湯川から電車に乗つて鶴馬場というところで電車をおりて、それから私の家までバスで行くのですが、そのバスを待つておるころでしたから、おそらく六時ちよつと過ぎぐらゐに、あまり感じなかつた風が急にまた吹き出しまして、待つておる間風に押されるといふかつかうです。吹き倒されるほどの風ではありませんでしたけれども、風に吹かれて五、六歩後に下らなければならぬような風が吹いておつた。そして私はバスに乗つて家に帰つたのですが、そのまます市内は全部電話も不通です。電燈もつかない。もちろん電車も動かない、非常にものすごい状況で、相当被害も市内に出たわけなのです。そういう状態で、私の家のラジオもとまつておるものですから、二十七

日の朝になつて、近所で騒ぎ出したので、私飛び出してみたけれども、こういう洞爺がひつくり返つてみたり、四時ごろの貨物船がひつくり返るような事故が起つておるとは考えなかつた。

あとから聞きまして、ちよつと私が湯川を出て家に帰る間の時間、いわゆる新聞は台風の目といつておりますが、そうかどうか知りませんが、これは聞いた話ですけれども、そのころ合に、洞爺が十八時三十七分に出帆をしておるのであります。そうして洞爺が、これは四便という船ですから、四列車四便で午後二時四十分青森に渡るべき船なのですが、どうもその先に出行つた十一青函が一〇二便という形で出て行つて、港外に行つてしげがひどいので折り返して来て、岸壁に着いて、これを四便に出る洞爺に乗せかえておる。これが二時四十分に出られないものだから、そのあとに五〇六列車、二〇〇六列車が入つて来て、これが六便として別の船で行かなければならぬものも積み込んだために、さうな橋助役の人員計算で言いますと、千四十二名という旅客になつております。もちろんこれは十一青函から乗ります。もちろんこれも入れておるのであります。正確な数字であるかどうか知りませんが、正確な数字であるから、乗船名簿の数が正確であるかどうか知りません。しかしこの表では千二百二十七名となつております。おそらくいろいろの方法で乗る人間がおつたり、あるいは改札の人たちが混雑であるから取り漏れておりますから、千二百は越しておるとは確かだらうと思ひます。そういう状態であつたのですが、十八時三十七分に岸壁を離れて行つたのか、そ

の先に沖がかりをしておつて、沖から出帆したのが、十八時三十七分かつたことについて、私は現場の人から正確に話を聞くことができなかった。これは岸壁についておると非常にあぶないことがあるので、風向きによつては沖に待機しておつて出すこともあるという長年の経験から、両方聞いてみたのですが、何分混雑しておるものだから、正確につかむことができませんでした。そういうときに出したのが非常にどうかという感じを持つておつたのであります。

氣象の方については、北海道新聞が二十六日の夕刊ですから、三時か四時ごろですが、それに書いておるのを出ております。これは今後の進路は速度を時速百十キロに早め、能登半島西部から北東に進み、夕刻奥羽地方北西部から本道南部に近接、場合によつては陸の公算も大になつたので、函館海洋氣象台では二十六日正午、次の暴風雨警報を発令した。台風十五号は二十六日正午現在新潟県西方沖にあり、中心示度九百六十八ミリバール、時速百キロで北東に進んでいるので、今日夕刻ごろ道南に近接する。このため渡島、日高地方で東後北西の風が強まり、最大風速は陸上二十メートルから二十五メートル、海上二十五メートルから三十メートルになる見込みで、驟雨豊は三十ミリから五十ミリになる模様である。なお該台風は今夜半から明朝にかけて、本道の東方海上に抜ける見込みなので、天候は明日から回復する、こゝろ出ている。この新聞が出たときは、まだ事故が起きていないときなので、ちよつと五時、六時、七時の間に静か

になつたからといつて出て行つたのは、どうも怪率であつたと私は思つたわけなのです。それは海峽は、台風が一過してしまつたあとで、海上のうねりというものはしばらくの間続くはずなのです。それもそういうときには、今まで大したことはありませんでした。今夜半から明朝にかけてという、台風通過のことがあとに示してあるのも、もう一日待機ができたのかつたのかという気がしてなりません。

そこでこれは上京する時分に、さん橋からいろ／＼聞いてみたのですが、その当時ちよつと青森のさん橋に羊蹄丸がおつたわけなのですが、これはまだ整理してありませんからわかりませんが、午前八時十五分に出帆して、午後十二時十五分ごろ函館に着くという便をとる船であつたと思はれる。これが五百四十九名の客を乗せ、それからあるのですが、これが青森で二十六日は出帆しない。二十七日も出帆しないので、二十八日の朝出帆をして、函館に五時ごろ着いて、それから私こつちに来たのです。二十七日に出帆しなかつたという事は、これはダイヤが混乱しておつたり、いろ／＼な船練りの関係で出なかつたのだらうと思ふ。しかし二十六日客を積んでいて、一日中岸壁につけたまま待機をして動かぬかつかつた状態と、洞爺が動いたといふ状況、これを私正確に調べたいと思つたのですが、どうもうまくないのじやないか。これも時間がないので飛んで行つて聞いたのですから、正確につかんでおられませんけれども、羊蹄が青森を出なかつたという風速は、たしか十五

メートルから二十メートル前後のものであつたように思われる。これは青森のさん橋長から聞いたのですが、そういうくらいなのですか。それならば洞爺の例にとれば、出帆してもいい風速でなかつたかと思はれる。もう一つは渡島丸という貨物船がありまして、これが青森へその日の十六時に着いておるわけですが、この渡島丸が函館を出て非常に難航し、コースを変更して、山の陰に津解ですか、北上ですか、進路を変更して、よう／＼青森に着いておるわけなのですが、その状態を青森のさん橋長はよくつかんで、これをも参考にしたことでおつたわけですが、そこで連絡のことですが、函館のさん橋長と青森のさん橋長は、両方の風の模様、あるいは海の模様、岸壁の模様を絶えず交換をして知らせ合つておる状態でありまして、渡島丸の難航したおる状態、それが青森のさん橋長の参考にもなつておる状態、そういうことが函館のさん橋長にどう考えられておつたか。たとえば函館の運輸司令部でどう考えられておつたか、洞爺丸の船長あるいは洞爺丸当事者の方でどう考えられておつたか、この点が疑問のままこへやつて来た。いろ／＼の何がありますか、そ

ういうことが私としては今もつと吟味しなればならぬ点ではないかと思つておる。測候所の通知のぐあひ、あるいはそれをキヤッチしたくあひ、その他も問題であります。そういう両方のさん橋長あるいは運輸司令部というものもつと緊密な情報の交換、これは現地の仕事をしておつた私たちの経験からすると、非常に大事な情報の交換なのであります。洞爺丸がああいうときに台風の目を知らないで出たとい

も、そういうことになつておる。このうち一番ひどいのは十一青函丸で、死体を確認したのばかりでありまして、生還は一人もないというような状態になつております。この遺族、家族の人たちと応接しておるのですが、見ていられないような状態になつております。これは局でこしらえた乗船名簿によつてこしらえた名簿なのですが、これも、別のところで受付をして応接をしておりますが、これはもう言語に絶するような見ていられないような状態が、函館埠頭から、七重浜から、死体の置場、病院に繰返されておるといふことを報告しております。

何にしてもそういうことで、ここで万全の策を講ぜられるということをお私に言ふ必要はありませんが、事故の原因をほんとうに正直にあからさまに発表してもらふこと、それから応急の対策として死体収容なり、その辺のことを十分にやつていただくこと、それからその後におけるいろ／＼の弔慰その他に、後顧の憂いのないようにしていただくかなければなりません。

それからまた輸送の方も聞いて参りましたが、残つた船で十三運航をやる。そうすると三千五百人ぐらゐの輸送力があるということを申し上げております。しかしこの輸送力が一日片道三千五百人の輸送力があるということですが、けれども、列車の接続を全然考えたものではない。とにかく両方へ渡せばいいのですから、青森のさん橋と函館のさん橋は非常に混雑することになる。これは経験上からも、實際上からも考えられます。そこで話の通りならば徳寿丸をこく最近のうちに函館へ回航するそうですが、それが一千名ぐらゐ

の乗客定員があるということも聞いております。もう一つそういうような応急の輸送をとられるにしても、十八運航をやるということになつておつて、それが片道八千五百トンの貨物を渡すことになつておるのが、こうなつたのですから、このままの形で行きますと、五千トンくらいしか輸送ができません。三千トンが付き詰まる。この問題も早急に解決してもらいたいと思つたのです。ことに秋作のばれいしよその他は出まわり期でありますので、これは何としても船の増強を急速に十月、十一月、十二月にやつていただく必要がある。そこで当局としてもあそこには道南海運という機帆船ですが、会社がありますから、これを動員して一北海道のものが押しかけるのですから、できるだけ青森で貨車積みできるように手配も速急にとつていただきたい。海上運賃も鉄道並のように、政府あるいは本行であんばいしてやつていただけないかと思つております。そういう話も営業局長にお話をして来たわけなんです。そういう現実の輸送態勢を強化するといふようなことについても考えておられるだらうと思つてますが、やつていただきたいと思つております。

鉄道職員はこれで二回非常な目にあつておりました。二十年の七月の十五日と十六日のグラマンの空襲で、連絡船が大半やられてしまつた。そうして職員が三百五十数名あつた海底に沈んでおる。その後今山崎さんからお話のあつた遭難などを入れて、たしか四百十九名の遭難者が現在までにあの海峽において出ている。函館の労働組合が中心になつて、八ッ頭に沈んだ記念

日に石碑を立てて何したのが二十八年の八月十五日でしたか、四百十九名、今またここでほとんど七十九名か八十名しか上つておらないとなると、そういう状態になつて来ます。その青函連絡船が空襲を受けたときの遭難者の処置も非常にスピードが遅れたのです。いまもつて函館の母子寮へ三十軒ぐらゐの人が入つておる状態で、遭難者の救済が非常に遅れ、現地には非常な非難の声も上り、御病人たちの難儀は言葉で尽せないような状態でありまして、現在でもそれを考えますと、とにかくそういう問題についても政府、これは一般の旅客も同じであります。これを処置しなければならぬと思つておる。国鉄の経済ではとても満足させるものはできないと思つて。福永官房長官その他が新聞で言明しておられることへ聞いておりますので、いづれまた向うへ帰りますが、福永官房長官とも会いたいと思つております。長崎さんの責任も非常に大きいことでありまして、これは鉄道のわくを抜けて考えていただかなければならぬと私は考えております。それだけのことを申し上げておきまして、なお帰つて現地において十分なる調査をしてみたいと思つております。

○關内委員長 本日はこの程度にとどめまして、次会は明三十日、午後一時から開会いたします。本日はこれにて散会いたします。午後四時十分散会